

教職員自主的研究推進事業 実績報告書

研究グループ名【共に学び個を生かす学級作りの会】

代表者の所属・職・氏名	川西市立清和台小学校	連絡先	住所	川西市清和台2-2-2
			TEL	072-799-0730
	FAX		072-799-3503	
	e-mailアドレス		tf1129@kawanishi-hyg.ed.jp	
	教諭・田中 富二子			

活動実績

研究テーマ

安心して学ぶ喜びを感じる学級作りを特別支援教育の視点で進める
～発達に課題のある子どもたちを通常学級の中で育てる方法をさぐる～

研究の概要

8月2日 講師を招いての事例検討会（1） 川西教育相談センター指導室 参加者8名

- ① 事例1—離席・暴言・暴れる・マイナス発言などの多動、多弁傾向のある子
 - ・先生のお手伝い係など多動を生かした指示、行動などで対応
 - ・期待を持たせるような注意をする「もったいない」「できるはず」
 - ・トラブルには即対応する
 - ・個別にこの子の話を聞いてあげる
- ②事例2—場の空気がよめない、他者理解できない子
 - ・認知の偏りを調べる
 - ・空間認知障害の改善をする
 - ・個別の声掛けを短くする
 - ・パターン化して教える
- ③事例3—不登校、家庭内で暴れる子
 - ・母親と本人の関係を築く
 - ・父親の介入
 - ・行為障害を視野に専門機関に継続的に相談する
 - ・本人の話せる場所を見つける（クリニック、カウンセリングなど）

研究会参加 ① 特別支援教育の視点を取り入れた参加しやすい学級作り（8月2日）2名参加

② 気になる子どもの理解と指導及び支援（8月25日）2名参加

③ 阪神特別支援学校「夏の講座」（8月25日）3名参加

9月16日 参加した研究会や各校の情報交換 川西中学校 参加者3名

11月29日 講師を招いての事例検討会（2） 川西教育相談センター指導室 参加者8名

- ① 事例1—担任以外の授業（専科）に参加しにくい、楽しいことだけする子
 - ・ほめて積み上げる

- ・本人との信頼関係を築く
- ・専門家との連携
- ・本人に配慮してくれる集団を育てる
- ・成功体験を積み上げる

② 事例2—勝ち負けにこだわる、暴言、パニックのある子

- ・負けた方が得をする事もあることを知らせる
- ・自尊心を下げない
- ・物事の流れを決める人（叱り役）と支援する人（なだめ役）の役割分担
- ・教育的なトークン

事例3—ADHD傾向のある子

- ・本人を抑制するルール作り
- ・抑制できればほめる

1月17日 講師を招いての事例検討会（3）講師事例による講演会

川西教育相談センター研修室 参加者32名

この1年間の事例の課題やまとめの意味で、いつも関わってもらっている講師の実践事例から「ソーシャルスキルの実践」の講演をしていただいた。特性のある子にどう関わっていいのか悩んでいる方たちの一助になればと今回はこの会が主催となって、メンバー以外も参加していただいた。特性に合わせたソーシャルスキルの内容や配慮事項、成果など具体的に学ぶことができた。

2月 今年度のまとめ 予定

成果と課題

発達に課題のある子どもたちは、なかなか集団の中で力を発揮できず、問題行動が目立ってしまう。どうしても叱責や注意が多くなり、学級集団の中にいることが困難になるケースが増えてきている。個別に関わる大人との信頼関係を築くことはできるようになってきたが、次に何を課題に関わっていけばよいかを本年度は研修してきた。

発達に課題のある子たちの個への関わり方は徐々にではあるが、進んできている。その子自身が安心して、個別場面で力を発揮できるようになってきているのは大きな成果である。しかし、集団になるとトラブルやパニックが起こり、周囲の子どもたちも受け止められなくて悪循環になる。本年度の事例研究では、実際のトラブルの場面で、どんな言葉、どんな方略で、子どもたちの気持ちをうけとめ、前向きにさせるか、どのように気持ちを切り替えていくのかを想定して研修してきた。「その子の特性に合わせて、関わり方を吟味する」「特性を生かしてやる気にさせる」ことが大切である。そのためにも今後も特性理解とともに安心でき、お互いを受け止める学級（集団）作りの視点で研修をしていきたい。